（一社）千葉県警備業協会「セイフティフォーラム2023in千葉」

警備員の労災事故ゼロへ

「警備の日」も周知　総勢90人が出席

（一社）千葉県警備業協会（加藤智行会長）の主催による「セイフティフォーラム2023.in千葉」が2023年11月10日、千葉市内の三井ガーデンホテル千葉で開かれ、総勢約90人が出席。11月1日の「警備の日」の周知を図るとともに、警備員の労働災害事故ゼロを目指す労働安全衛生大会として、青年部会員が主体となり企画・運営したもので、今回で8回目を数えた。来賓として、県警察本部生活安全部の高津浩司・風俗保安課長、千葉市消防局警防部の石垣昭彦・救急課長らが祝辞。さらに特別講演では、千葉労働局労働基準部健康安全課の鈴木毅・副主任地方産業安全専門官による「警備業における労働災害防止について」と、㈱千葉薬品の江澤愛里・産業保健師による「免疫力アップ講座～心と身体の両方で免疫力を高めよう～」をテーマに話を聴いた。

㈱千葉薬品の江澤愛里・産業保健師による「免疫力アップ講座」

強固な意志と安全対策

（一社）千葉県警備業協会 会長　加藤　智行

コロナ禍においても、青年部会員からは「安全はすべてにおいて優先する」という考えのもと、警備員の悲惨な労働災害を1件でも減らしたいという強い思いから、一度も中止せずに開催してきたことは、協会会長として、その思いを高く評価するものであります。

本日は「論文」「ポスター」「標語」の各部門において受賞された皆さま方、誠におめでとうございます。いずれも素晴らしい作品であり、今後それぞれの職場において、労災事故の絶無を期するため、率先垂範して安全対策に取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

警備員の安全と健康を守る重い責任

多発する警備業界における労働災害に関して、23年8月1日に全国警備業協会から「死亡事故増加に伴う警備員の受傷事故防止対策の再徹底について」と題する文書が、各都道府県警備業協会に通達され、過日、会員の皆さまにも周知させていただきました。

その内容は、全国において、6月から7月末までの2か月間で4件の重大労災事故が発生し、うち3件が交通誘導警備業務中における交通死亡事故であるとのことでした。

また、この通達発出後にも、警備業務中の警備員の死亡事故が全国各地域で発生しており、大変憂慮すべき事態であると認識するところであります。

これは決して他人事ではありません。当県内においても、交通誘導警備業務中の警備員の死亡事故が発生していることは、皆さまも承知している通りであります。

引き続き、交通誘導警備現場をはじめとして、現場では常に重大事故に遭遇するリスクを抱えているということを再認識して、安全教育及び現場指導の徹底を期していただきますようお願い申し上げます。

今年の会報7月号に「令和4年度中の県下加盟会社における労働災害事故の発生状況」について掲載させていただきました。

そこからは、①年齢別では業務災害・通勤災害とも、50歳代以上の方で半数以上を占めている②業務災害の事故原因で最も多いのが「転倒事故」であるが、熱中症による災害が増加している――ことなど、県下加盟会社における労災事故の特徴や傾向が見て取れました。

皆さま方には、本資料を社内の安全教育等の機会に活用していただき、労働災害事故「ゼロ」への取り組みを強化していただきたいと思います。

我々経営者や幹部には、警備員の安全と健康を守るという重い責任があります。「労働災害による犠牲者を一人も出さない」という強い意志をもって、安全対策に万全を期してまいりましょう。

警備業界との連携高める

千葉県警察本部風俗保安課長　髙津　浩司

せっかくの機会をいただきましたので、私から千葉県内の治安情勢について、お話ししたいと思います。

まず、治安情勢の目安となる千葉県内の刑法犯認知件数ですが、暫定値ではありますが、23年10月末現在で3万1059件であり、前年同期比4267件増加しております。

「電話de詐欺」については、同じく10月末現在112件で、前年同期比で50件減少し、被害金額は約23億7600万円で、約9100万円の減少となります。

しかしながら、県内では依然として高額な被害が頻発するなど、厳しい情勢にあります。

次に、交通事故発生状況についてですが、10月末現在の暫定数で、千葉県内における交通人身事故の発生件数は1万953件と、前年同期比で336件増加しております。

一方、死者数は96人と前年同期比で4人減少しておりますが、全国の交通事故死者数で千葉県は現在ワースト5位であり、依然として厳しい情勢にあります。

特に、交通事故に関しては、年末にかけて、薄暮時間帯や夜間帯における交通死亡事故が増加する傾向にあるほか、飲酒運転による重大事故の発生も懸念されるなど、皆さんの業務においても危険性が高まってくるのではないかと危惧されるところであります。

犯罪の起きにくい社会づくりを推進

警察としては、これまで以上に警備業協会の皆さんとの連携を高め、社会の安全・安心を確保するとともに、犯罪の起きにくい社会づくりを強力に推進してまいります。引き続き、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、本フォーラムは11月1日の「警備の日」に伴うイベントとして、「労働災害事故の防止を図る意識をより高めること」を目的に開催し、警備業界における労働災害の絶無を期する、極めて重要な大会であると伺っております。

皆さんが携わる警備業は、生活安全産業として、我が国の治安の維持、確保のために不可欠な存在であり、警備業に求められる使命と果たすべき責務は、いっそう重要なものになると認識しております。

今後も（一社）千葉県警備業協会や、皆さんの様々な取り組みにより、第一線で活躍する警備員の方々が、より安全に安心して働くことのできる職場づくりを推進していただき、引き続き、警備業の適正化や安全活動の推進にご尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

各部門表彰

論文部門

【最優秀賞】
○労働災害事故防止の考え方（髙橋哲弘・ALSOK千葉㈱）

【優秀賞】
○生活習慣病と労災（中島久美子・㈱日警保安）
○「仕組み」と「意識」（松野　準・㈱MSK）

【奨励賞】
○ヒューマンエラーに起因する労災0を目指して（朝生宏史・綜合警備保障㈱）
○労働災害防止とAI技術活用について（竹田健吾・ALSOK千葉㈱）
○健康管理対策について（安達奈緒・㈱日警保安）

ポスター部門

【最優秀賞】
○「指・装・報」忘れていませんか？（菅澤将樹・㈱エムサス）

【優秀賞】
○その確認大丈夫？（江口浩喜・㈱エムサス）
○全員で目指すゼロ災（錦織夏海・㈱スワット）

【奨励賞】
○周囲の安全確認（安達奈緒・㈱日警保安）
○健康診断は重要（中島久美子・㈱日警保安）
○労働災害をなくそう（宍田利孝・北総警備保障㈱）

【ポスター部門】入選作品

標語部門

【最優秀賞】
○あわてるな 焦る気持ちが 事故のもと 落ち着き行動 労災ゼロへ（菅澤義弘・㈱アニバーサリー）

【優秀賞】
○自分だけは大丈夫 その慢心が 事故招く（黒川明子・㈱スワット）
○ゼロ災害 今からここから 自分から（大谷一夫・㈱スワット）

【奨励賞】
○労災防止の第一歩 なくそう死角と障害物（荒川　眞・㈲龍成警備）

論文最優秀賞

労働災害事故防止の考え方

ALSOK千葉㈱／髙橋　哲弘

【労働災害事故の現状】

千葉労働局は、昨年、令和4年1月から12月までの労働災害の死傷者数（休業4日以上）が初めて1万人を超え、過去最多の1万2548人となったと発表した。医療などの新型コロナウイルスの感染者が半数以上を占めるが、コロナ関連を除く死傷者数も増加傾向にある。増加は7年連続で、1万を超えたのは、統計を取り始めた昭和47年以降初めてとなる。

その内訳は、新型コロナ関連6407人、転倒事故1694人、動作の反動・無理な動作1065人、墜落・転落844人と続く。業種別では、我々警備業や医療関係が含まれる第3次産業（サービス業）が全体の7割を占める。各業界が、安全に対する意識を高めるために注意喚起を促し、事故防止を図っているにも関わらず減る傾向にない。

主に1号警備業務と2号警備業務（雑踏）を取り扱う、私の勤める警備会社も例外ではなく、毎年、労災事故が発生している。実態としては、迎春、花火大会など、臨時で行う「慣れない場所」での労働災害事故は、ほとんど発生していない。では、どこで、どのような時に発生しているのか。それは、常駐で勤務している「慣れた場所」で、荒天時ではなく、好天時に発生している。

【警備業の特徴】

警備業において、安全に対する意識は個人に依存するところが大きい。なぜならば、単独で任務に当たることが多いからである。私自身の経験になるが、警備対象施設の大きさ、隊員の多さに関係なく、ひとたび巡回に出発すれば「一人」になる。いくら警備室から遠隔監視をしていても死角はある（トイレ内等）。

労働災害事故を減らすには、現業部門の隊員一人一人が安全に対する意識を高め、低下する原因を認識し任務に当たることが必要であると考える。しかし、人は感情や疲労などによって作業の質と量が変わることがある。そのような状態になると、効率性を求め、当たり前のことが当たり前にできなくなり、基本から逸脱した作業を行い事故につながってしまう。

【警備業における労働災害事故の原因】

警備業の労働災害事故は、1号警備業務では巡回中、2号警備業務では車両誘導中に起きやすい。AIなどの資本では代替できない業務が多い警備業において、マンパワーに頼る比重は非常に高く、労働災害事故の原因は、基本から逸脱したヒューマンエラーによるものが多い。

知識不足で異常に気付かない。先入観や固定観念、思い込みにとらわれてしまい、無意識に決めつけてしまった。判断は正しかったが、誤った方法で実施してしまったなど。

また、疲労が蓄積し、注意が散漫になり見落とすこともある。このように人的作業の弱さが露呈する。

近年、DXへの注目が高まり、各企業において、様々な取り組みが進められるようになってきた。デジタル化したシステムや、ツールなどを導入することで、業務の効率性・確実性を高め、生産性の向上が図れることが大きな特徴だ。

警備業界においても、DXの導入と浸透は必要不可欠である。デジタル化の推進によりヒューマンエラーを防ぎ、作業の効率性・正確性が向上できる。

機械は、基本に沿った作業を淡々とこなすことが得意であり、人間のように感情によるバイアスを排除できる。

また、高齢者が多く勤務する職場にあっては、体力的な負担を軽減し、安全に働ける環境を構築できる。

つまり、この特徴は、労働災害事故防止にもつながるものであると考える。

【警備業DX化による労働災害事故防止策】

○ヒヤリハットのデジタル化

例えば、事故に至らなかった理由や、回避できた能力などの観点を捉えた「ヒヤリハット報告」をデジタル化し、年齢・経験年数・経験勤務先など、属性別に転倒リスクや、柔軟性・適応性能力の特徴を把握し、現場での課題を「見える化」させる。その結果、個別に具体的な教育・指導を行うことが可能となり、デジタル化による労働災害事故防止策が構築される。

○バックオフィスのデジタル化

警備会社のバックオフィス（人事・経理・総務など、社内を管理する部門）は、普段現場で勤務するわけではないので、デジタル化を進め、業務を最適化すれば、より多くの業務をテレワークに当てることが可能となる。それは通勤というリスクを回避させ、労働災害事故防止に結び付く。

【警備業界における労働災害事故の将来】

今後、警備業界もDX化による人的作業のデジタル化により、「新しい警備の形」が次々と現れ、業務内容が大転換することが予想される。一方、デジタル化では、代替えできない業務に対するニーズは必ず残る。最後の砦と呼ばれるような人的作業については付加価値が付き、ひいては警備業界の社会的地位の向上につながるものと自負している。

デジタル化の波が押し寄せ、既存のビジネスモデルが変わる今、労働災害事故防止策も変わる時ではないか。

大会宣言

われわれ（一社）千葉県警備業協会会員は、各種警備業務を通じて社会公共の安全に寄与するという確固たる基本理念のもと、安全産業の中核業界として、警備業が果たす社会的役割を的確に遂行することを責務とする。

県民が肌で感じる安全・安心な生活環境を確保するには、警備業務を通じた事件・事故等を絶対に惹起させてはならないという、業界の宿命があることを忘れてはならない。

そこで、組織を上げて次のことを実践していく。

1　われわれは、協会の基本理念を堅持していくため、誰もが安全で安心して働くことのできる明るい職場づくりに邁進する。

2　われわれは、コンプライアンスと警備業務の適正化に全力で努める。

3　われわれは、率先垂範し、危機管理と労働災害の防止に努める。

4　われわれは、適正な労務環境を確保するため、警備員の健康管理体制の充実に努める。

以上、宣言する。

2023年11月10日

安全、安心 街づくりに貢献します

一般社団法人 千葉県警備業協会

会長　加藤　智行

〒260-0027　千葉市中央区新田町 4-25 パル・サンライト 2 階　TEL：043-246-3205　FAX：043-247-6976　URL http://www.chikeikyo.or.jp/